

公表 事業所における自己評価結果

Table with columns: 事業所名 (事業所名), 公表日 (公表日), チェック項目 (チェック項目), はい (はい), いいえ (いいえ), 工夫していると思う点・改善が必要だと  
思われる点など (工夫していると思う点・改善が必要だと  
思われる点など), 課題や改善すべき点 (課題や改善すべき点), 工夫していると思う点・改善が必要と思われる点など (工夫していると思う点・改善が必要と思われる点など). Rows include 環境・運営・体制 (環境・運営・体制) and 業務改善 (業務改善) sections.

関係機関や保護者との連携	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	学校や関係事業所と連絡を取り、情報共有を行っている。 連携内容を職員間で共有し、支援の一貫性を意識している。	医療・教育機関との連携をさらに強化し、相談・協議の機会を増やす。 役割分担を明確にし、より主体的に連携を図れる体制を整える。	連携は一部のみとなっているが、どう介入して良いのかわからない時がある。教育などは介入しづらい雰囲気がある。連携内容は職員間で共有し、訪問支援に一貫性がもてるように工夫している。・定期的に話し合いをする場を設けることで連携を図るようになっている。学校やその子が利用している放課後サービスの担当者とも連絡をとっている。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	就学時に支援内容の情報提供を行い、必要に応じて学校と共有している。 訪問時に担任と情報交換を行い、支援の方向性を合わせるよう努めている。	学校との連携方法をより明確にし、相互理解を深める機会を増やす。 移行期における情報共有の仕組みをより体系化する。	情報提供は行なっている。学校との相互理解は各学校による。拒否的などところもある。関係事業者と情報共有を行ない、相互理解のもと支援を行なっている。・必要に応じて、情報共有を行うことで相互理解を図ることが出来ている。訪問時は毎回学校の担任と話をし、意見などは参考にさせてもらっている。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	0	外部研修に参加している。 月1回の研修を実施し、内容を報告・共有して職員全体の質向上に努めている。	研修内容を実践により具体的に反映させる仕組みを強化する。 専門機関との継続的な連携をさらに充実させる。	助言を受け外部研修を受けている。外部研修を受講する機会があり、専門家や専門機関等から助言を受けるようにしている。・月1回の研修を実施し、研修後は報告書を出し回覧することで、他の職員の意見も見られるようになっている。月1回の研修を実施し、外部研修にも積極的に参加している。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	3	積極的な参加は出来ていない。	関係情報を積極的に収集し、計画的に参加できる体制を整える。 地域とのつながりを広げ、参画の機会を増やしていく。	いつでも行われているのか、どう参加して良いのかわからない。得られた情報を支援に活かすようにしている。・機会があれば参加したい。これからは積極的に参加できればと考える。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	送迎時や面談で子どもの様子を伝え、共通理解を図っている。 保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている。	発達状況や課題をより具体的に共有し、記録としても整理していく。 定期的な面談機会をさらに充実させる。	保護者とのコミュニケーションは積極的に進んでいる。訪問時や支援後に、子どもの様子や変化をわかりやすく保護者に伝える機会を設けている。・送迎時に様子を伝えたり個別で面談を行うことで、共通理解を持ちながら、保護者の方が話しやすい環境をつくることも心がけている。送迎時に様子を伝えたり、面談を通じて共通理解を持てるよう心がけている。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	家族向け研修を実施し、家庭で実践しやすい関わり方を伝えている。 面談や保護者会を通して情報共有を行っている。	参加しやすい形での研修開催や情報提供方法を工夫する。 継続的な家族支援の仕組みを強化する。	年に一度は実施できるようにしている。研修の情報提供もしている。日常の支援場面をもとに、家庭でも実践しやすい関わり方や声かけの工夫を具体的に伝えている。・個別面談や保護者会を行うことで、情報の共有や個別での対応が出来るように工夫している。面談や保護者会を行い、情報の共有や個別での対応が出来るように工夫している。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	契約時に丁寧な説明を行い、内容を職員間で統一している。	説明内容の確認機会を設け、理解度をより丁寧に確認する。 変更点があった際の周知方法を明確にする。	契約時に行なっている。説明内容は職員間で共有し、説明にばらつきが出ないように統一している。・契約時に丁寧な説明を行っている。契約時に説明を行っている。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	0	事業の趣旨や訪問支援の目的を説明し、担任と情報共有を行っている。 継続的に連絡を取り、信頼関係の構築に努めている。	学校ごとの理解度に差が出ないよう、説明方法を工夫する。 事業内容の周知をより体系的に行う。	適宜説明は行なっているが、受け入れるかは各学校による。説明後も質問や相談を受け付け、継続的な信頼関係の構築につなげている。・密に連絡を取りながら、情報を共有し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行う事が出来ている。担任の先生とは連絡を取りながら、情報を共有し、訪問支援の目的等について説明を行う事が出来ている。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	計画作成前に保護者の意向や困り感を丁寧に聞き取っている。 面談やモニタリングを通して定期的に確認している。	子ども本人の意向確認の方法をさらに工夫する。 意向を計画により具体的に反映させる。	意向確認は必ず行なっている。計画作成前に、保護者から子どもの様子や希望、困り感を丁寧に聞き取る機会を設けている。・送迎時や個別の面談、担当者会議などで意向を聞き、確認する機会をつくっている。年2回のモニタリングとアセスメントを行っている。また、訪問後など、保護者と話をする機会を作っている。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	0	計画書を示しながら丁寧に説明し、同意を得ている。 専門用語を避け、分かりやすい説明を心がけている。	説明後の理解度確認をより丁寧にを行う。 変更時の再説明を確実に実施する。	計画書の説明を行い同意を得ている。説明時は、専門用語は避けて保護者が理解しやすい言葉で丁寧に説明するよう心がけている。・支援内容について、保護者に直接対面で説明を行い、同意を得ている。計画書を作成した際に、説明を行い同意のサインをもらっている。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	0	送迎時や面談で相談に応じ、具体的な助言を行っている。 保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけている。	定期的な相談機会をより計画的に設ける。 相談内容を記録し、継続支援に活かす。	相談には応じている。必要に応じて面談の機会を作っている。面談の場では、保護者の気持ちに寄り添いながら、家庭で実践しやすい具体的な助言や支援を行なっている。・送迎時などに情報を共有し、必要に応じて個別の面談を行うなど、適切な支援を行うことが出来ている。送迎時などに情報を共有し、必要に応じて個別の面談を行うなど、適切な支援を行うことが出来ている。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	定期的に保護者会を開催し、情報共有や交流の場を設けている。 参加が難しい家庭にも配慮した関わり方を工夫している。	きょうだい同士の交流機会をさらに充実させる。 オンライン等も活用し、参加しやすい形を検討する。	保護者会は定期的に実施している。参加が難しい家庭にも配慮し、無理のない関わり方や情報共有の方法を工夫している。・保護者会を行うことで、情報を共有したり、保護者同士の交流の場を適切に設けることが出来ている。保護者会を行うことで、情報を共有を行い、保護者間の交流の場を設けることが出来ている。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、迅速な対応に努めている。 職員間で情報共有し、適切に対応している。	相談窓口や対応手順をより明確に周知する。 対応内容を記録し、再発防止や改善に活かす。	迅速な対応を心掛けている。日頃から相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、早急に声を上げてもらえる関係づくりを行なっている。・職員間でも情報を共有し、連絡を迅速に取りながら適切に対応することが出来ている。職員間でも情報を共有し、連絡を取りながら適切に対応出来ている。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	1	SNSやブログ、月1回のカレンダー等で情報発信を行っている。 公式LINE等を活用し、連絡体制を整えている。	保育所等訪問支援に特化した情報発信を強化する。 発信内容の計画化と更新の継続性を高める。	発信は方々とともに進んでいる。保育所等訪問に関するSNS発信はまだ行なっていないため、必要な情報を知らない人にも伝えていけるように計画していきたい。・フェイスブックやインスタグラムを活用し、週1回のブログ発行を行っている。・月1回カレンダーを発行し、デフォルトやLINE等を活用し、情報を伝えている。SNSを活用し、週1回のブログ更新を行って、情報発信を行っている。また、月1回カレンダーを発行し、デフォルトやLINE等を活用し、活動などの情報を伝えている。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	取扱いルールを定期的に周知し、職員間で徹底している。 施設可能な書庫での保管やPCセキュリティ強化を行っている。	定期的な内部点検や研修の実施を継続する。 情報漏えい防止マニュアルの明確化を図る。	十分な注意を行なっている。個人情報の取り扱いについてのルールを定期的に行なうことで、職員間で周知・徹底している。・鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行ったり、パソコンのセキュリティを強化するなど、十分留意している。施設が出来る書庫に保管をしている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	本人・保護者の思いをくみ取る姿勢を大切にしている。 LINEやデフォルトを活用し、迅速な情報共有を行っている。	個々の特性に応じた伝達方法の工夫をさらに充実させる。 伝達内容の振り返りや確認体制を強化する。	配慮は行なっている。意思の表出を大切に、子どもや保護者の思いをくみ取る姿勢を大切にしている。・LINEやデフォルトを活用し、情報伝達を迅速に出来るように配慮している。LINEやデフォルトを活用し、情報伝達には配慮を行っている。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に対応できる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	0	訪問先からの相談に適切に対応できる体制を整えている。 申し送りや全体会議で情報共有を行っている。	相談内容の記録・分析を行い、支援の質向上に活かす。 緊急時の対応フローをより明確にする。	相談等には適切に対応している。適切な体制を整え、訪問先からの相談等に応じ支援に活かすようにしている。・訪問先からの相談等について、担当だけでなく全体で共有できるように申し送りや全体会議を行い、適切に対応できる環境を整えることが出来ている。訪問先からの相談等について、担当だけでなく全体で共有できるように申し送りや全体会議を行っている。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4	0	可能な範囲でカンファレンスを実施し、情報共有や課題整理を行っている。 担任と話す時間を設け、実施後の振り返りを行っている。	多忙な施設でも実施できるよう、短時間・書面等の代替方法を検討する。 カンファレンス内容の記録を充実させる。	カンファレンスに応じる学校もあれば忙しくてできないと拒否されることもある。実施後に改めて様子についてや気になったことを話す場をつくっている。・適切にカンファレンスを行う事で、情報の共有や次回の課題についてなどの話を行う事が出来ている。担任の先生と話す時間は作っている。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4	0	実施当日に送迎時や電話で内容を共有しや報告書の作成をしている。 必要に応じて個別面談を行っている。	共有方法を統一し、確実に伝わる体制を整える。 保護者からのフィードバックを支援に活かす。	支援内容の共有を行なっている。実施後、その日のうちに送迎時に支援内容を適切に伝えている。・送迎時などに情報を共有するだけでなく、必要に応じて個別の面談を行いながら、支援内容等の共有を行う事が出来ている。訪問後に電話で様子を伝え、報告書を作成し渡している。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	定期確認を行い、個人情報保護の意識向上に努めている。 施設書庫での保管やPCセキュリティ対策を徹底している。	内部点検や研修を継続的に実施する。 緊急時対応マニュアルを再確認する。	十分注意を取り扱っている。定期的な確認を行ない、個人情報保護への意識を高めている。・鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行ったり、パソコンのセキュリティを強化するなど、十分留意している。鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行っている。
非常時等の対応	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4	0	日頃から様子共有し、信頼関係の構築に努めている。 申し送りや会議で情報共有し、組織的に助言を行っている。	助言内容を記録し、継続的支援につなげる。 専門性向上のための研修機会を充実させる。	信頼関係が築ける施設との連携は行なえている。学校送迎時などで、学校の様子を聞くなどで信頼関係を築けるよう配慮を行っている。・訪問先からの相談等について、担当だけでなく全体で共有できるように申し送りや全体会議を行い、適切に対応できる環境を整えることで、信頼関係を築きながら助言を行うことが出来ている。訪問先からの相談等について、担当だけでなく全体で共有できるように申し送りや全体会議を行い、信頼関係を築きながら助言を行うことが出来ている。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	各種マニュアルを策定し、職員・家族へ周知している。 マニュアルに沿った定期的な訓練・研修を実施している。	訓練内容の振り返りと見直しを継続する。 家族への周知方法をさらに分かりやすく工夫する。	マニュアルは放課後デイ部門と同様に策定し周知している。家族に対しても必要な内容をわかりやすく伝え、安心して利用できるよう配慮している。・マニュアルを作成し、マニュアルに沿った定期的な訓練や研修を行うことが出来ている。マニュアルを作成し、マニュアルに沿った定期的な訓練や研修を行うことが出来ている。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画を作成し、定期的な研修・訓練を実施している。 職員が安全意識を持って支援できる体制を整えている。	安全点検の記録を活用し、改善につなげる。 緊急時対応の実践力向上を図る。	放課後デイ部門と同様に研修訓練を行ない、安全管理に努めている。安全計画を作成したうえで、定期的に研修や訓練を行なっている。・安全管理に必要な研修や訓練を定期的に行い、職員が常に安全に意識を持ちながら支援が行えるよう努めることが出来ている。安全管理に必要な研修や訓練を定期的に行い、安心・安全を意識しながら支援が行えるように努めることが出来ている。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	安全委員会を設置し、ヒヤリハット・アクション事例検証と共有を行っている。 再発防止策を職員間で検討している。	事例分析を体系化し、傾向把握に活かす。 共有内容を支援改善により具体的に反映させる。	放課後デイ部門と同様に検討を行なっている。ヒヤリハット委員会を設置し、内容を職員間で話し合い事故再発防止対策に努めている。・ヒヤリハット事例について、係りをつくり事例検証を行い、職員間で共有することで、再発を防止するよう努めることが出来ている。ヒヤリハット事例について、係をつくり事例検証を行い、職員間で共有することで、再発を防止に努めている。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	虐待防止委員会を設置し、定期研修を実施している。 日々の状況把握を行い、意識向上に努めている。	セルフチェック等を取り入れ、早期発見体制を強化する。 外部研修への参加も検討する。	放課後デイと同様に研修を設け適切な対応ができるようにしている。委員会を設置し、定期的に研修を行なうことで適切な対応ができるようにしている。・虐待防止委員会をつくり、日々の状況把握を行い、定期的な研修を行うことで、職員の意識づくりと適切な対応を学ぶ機会を設けることが出来ている。虐待防止委員会をつくり、日々の状況把握を行い、定期的な研修を行っている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0	身体拘束対策委員会を設置し、基準・手順を明確化している。 事前説明と計画書への記載を徹底している。	拘束に至らない代替支援の検討を継続する。 実施状況の定期的な点検・評価を行う。	身体拘束の適正化は事前の説明を行い計画書への記載も行っている。身体拘束対策委員会を設置し、身体拘束に関する基準や手順を定め、組織として慎重に検討・決定する体制を整えている。・身体拘束防止委員会をつくり、定期的な研修を会全体で行うことで、適切な対応を学ぶ機会を設け、保護者にも文章等で伝えることが出来ている。身体拘束防止委員会をつくり、定期的な研修を行っている。また、保護者にも文章等で伝えることが出来ている。